

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475301040
法人名	(株)ソシエニード
事業所名	連坊小路グループホームスカイ
所在地 (電話番号)	仙台市若林区連坊小路135 (電話) 022-216-3750
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21年 3月 13日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8.35 人

(2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 900 円			

(4)利用者の概要(2 月 21日現在)

利用者人数	9 名	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名	
要介護3	2 名	要介護4	2 名	
要介護5	0 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 83.9 歳	最低 76 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	仙台富沢病院・みどりの杜歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

青森県に本拠をおく社会福祉法人楽晴会が、平成20年4月に経営を引き継いだ、1ユニット9名のグループホームである。仙台駅に近い古からの商店街むにゃむにゃ通りに面した4階建てビルの2階にある。むにゃむにゃ通り商店商興会とは緊密な関係にあり、災害時には高齢者、障害者をホームとデイサービス事業所で受け入れる約束をしている。街のイベントへの職員の参加や食材の仕入れ、入居者の買い物や散歩など、グループホームでは街ぐるみのケアを目指している。建物がビルであり、温度、湿度の管理が良すぎることから、職員は入居者が四季を感じ取ることができるように工夫もしている。新入社員と職員との1か月に亘る1対1のOJTも特筆に価する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 平成20年4月1日に事業継承し、初めての外部評価である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が自己評価に取り組み記入した。管理者によると職員はケアについて、「こうしたい、ああもやりたい」と大変意欲的なのが嬉しかったと話している。事業を譲り受けて以来初めての外部評価であるが、今回の結果をふまえて積極的に改善に取り組みたいとしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議メンバーは町内会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センター所長、デイサービス所長、管理者で、2か月に1回開催している。町内清掃への参加、町内の防災活動へのホームの協力について申し出をし、更に今後のグループホームでの避難訓練の予定も説明して協力をお願いしている。委員からはバリアフリーやおむつ外しについて等も話題として出されている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 金銭管理等の報告と共に、入居者の暮らしぶりの写真や、担当者が一筆書き添えた「家族レター」を再開するとしている。家族からの意見、希望の聞き取りには面会時の機会を大切にしている。直接に苦情としては出にくいので、要望として聞き出す努力をしている。「おじいちゃんが喋るようになった」と喜んでくれる家族には職員が励まされている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) グループホームは商店街の中にあり、ホームの仕事の内容と「地域と一緒に」という趣旨が商興会の広報紙「むにゃむにゃ倶楽部」で広く紹介された。町内会からの要請により、災害等有事の際に、町内会の高齢者、障害者の避難場所となっている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「お客様、職員、地域住民の物心両面の幸福」としている。更に当ホームとして「笑顔で寄り添う介護」を加え、具体的なケアの質の向上も理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	同じ建物にあるデイサービスの職員と共に、月1回の全体ミーティングで上司から理念に基づく話がある。理念にある地域住民との関わりについてはよく認識され、地域の商店街の組織に活発に働き掛け、交流が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	このグループホームは商店街の中にあり、ホームの仕事の内容と「地域と一緒に」という趣旨が、連坊小路商興会の広報紙「むにゃむにゃ倶楽部」で広く紹介された。町内会(婦人会)に加入し行事に参加している。町内会からの要請により、災害など有事の際の高齢者、障害者の避難場所となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の項目について、全職員がそれぞれ記入した。管理者によると職員はケアについて「こうもやりたい、ああもしたい」と大変意欲的だったので嬉しかったと話している。事業を譲り受けて以来初めての外部評価であるが、今回の結果をふまえて積極的に改善等に取り組むとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは町内会会長、民生委員、家族代表、地域包括センター所長、同法人デイサービス所長、管理者で、2か月に1回開催している。町内清掃への参加、町内の防災活動へのホームの協力について、今後のホームでの避難訓練の予定も説明し、協力をお願いしている。おむつはずしについて等も話題になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の保険者としての担当課、担当者との連絡、交流は今の所ない。ホームとしては、地域密着という観点から、市や区が開催する講習会、研修会等に参加する用意はあるが、そのような企画や案内はない。ホームの運営推進員等を通じて、行政との連携を密にしなければならぬ課題である。	○	行政機関によっては、保険者として職員が担当課に配属になった時には、研修としてグループホームを活用するなど、行政と施設現場のつながりを重視している所もある。地震対策などの防災関連で地域町内会への連携を深め、行政としてのホームへの関与を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	従来、定期便として金銭管理の報告と「家族レター」として入居者の暮らしぶりや状況を、居室担当が一筆添えて写真を送っていたが、ちょっと中断している。今回の評価に際し、今月からでも再開すると約束してくれた。家族との面会を報告の機会としている。来れない家族には電話で医師の往診時の内容などを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見の聞き取りは面会時の機会を大切にしている。しかし苦情としては出されないので、要望として聞き出す努力をしている。訪問美容とか、ゆたんぼの使用についてである。「おじいちゃんがしゃべるようになった」と喜ぶ家族には職員が励まされている。苦情受付に第三者委員の氏名も明示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでの職員等の異動は経営事情にもよるが、現在は異動による入居者へのダメージに配慮し、最小限にとどめることとしている。これまでの職員の異動について入居者への説明は、異動した職員との関わり方に配慮し注意深く行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同系列法人で新規採用研修を終了して配属された新人に対し、担当者1対1のOJTを行っている。その際受講者は「目標と課題」について研修日報を作成し提出している。NPO県グループホーム協議会の研修受講者は、全職員に対し報告している。資格取得の受講者へは、実技指導などを支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入している。県内同法人施設との交流や情報交換、研修は活発だが、事業継承後日が浅いこともあって、同業者との交流はこれからである。NPO県グループホーム協議会を拠り所に、地域のネットワーク作りに努めたいとしているので、期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みの意向を受けた時から、担当のケアマネージャー等との連絡を密にし、本人、家族と話し合い、状態、希望を調査し、全職員で検討した上で体験入居とし、その間約10日位をあてている。それに基づき仮のケアプランを作成し家族に示し承諾を得て、正式に入居としている。入居までに2か月を要したこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員の信頼関係が一番大切だということで、工夫をこらしている。本人と職員との1対1の関係を作るための担当制の実施、対話での聞き上手になる努力などである。入居者同士のコミュニケーションにも注意を払い、共同作業の場を多く、個々の対話が多くなるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人が言わなくとも、腰が痛ければ歩き方でわかるし、いつもと表情が違えば原因を読み取る工夫をしている。本人のやりたい事、考えていることについては、東京センター方式のシートを使いファイルしている。買い物で出掛けた時は、職員も入居者と共に店の人との会話を楽しんでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の策定に当たっては、入居者の日々の記録、本人の生活上の喜怒哀楽等を見極めて策定している。本実施前に仮の原案を作成し、職員で検討し、家族に説明し同意を得るなど、計画策定のプロセスを大切にしている。東京センター方式のシートを使っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体的変化、病状の変化がある場合はその都度、変化がみられない場合でも3か月に1度の見直しをしている。ホームの室内は常温を保ち、入居者は比較的薄着で過ごしている。そのため、季節に対する感じ方が鈍くなっている恐れがあるとして、環境に対する入居者の感性についても介護計画で見直す必要を感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時には家族が対応することもあるが、職員が付き添うことが多い。職員の方が本人の日常生活や身体状況を把握出来ているので、医師との対応もスムーズである。インフルエンザの予防注射は職員と共に実施している。デイサービス事業所のイベントに職員と一緒に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は緊密で、3名の医師の往診を得ている。必要とする入居者は定員9名中7名で、1人に付き2週間に1回程度となっている。医師の往診については、家族から安心の言葉がある。(家族アンケート)		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業継承が平成20年4月1日であり、入居者とその家族や、地域との関係作りに力を入れていることもあり、重度化や終末期への対応までには至っていない。方針等確立の必要性は理解しており、これからである。	○	グループホームの現状は理解するとしても、先行きを考えれば入居者本人、その家族のニーズや身体状況の変化も予想できる。早い段階からの重度化終末期に対するグループホームとしての方針の確立、具体的な対応等について職員、家族、医療機関と話し合い、検討を期待したい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者本人の自尊心に配慮し、特に排泄、入浴時に注意してケアに当たっている。各部屋への入室時には必ず声掛けしている。ケース記録等の記入時は周りの様子に配慮している。ふとした会話からプライバシーを損ねることがないように、特に入居者の家族に関することは厳につつまむようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者が今やりたいこと、望んでいることを察知するように努めている。ホーム内の暖かさから季節に対する感覚が鈍ることを懸念して、冬は厚着をして外出するなどにも努めている。職員は、お風呂で背中を流し「有難う」と言われた時など、仕事の醍醐味を感じるという、入居者と職員の1対1の介護の場を重視している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と季節の食べ物を話題にし、食べたい物などを聞き出している。それらを参考にして献立を作り、食材はむにやむにや通り商店街で購入している。献立のカロリーやバランスについては、同法人内デイサービスの栄養士に助言をもらっている。食事は職員も入居者と一緒に楽しみながら摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を入居者と職員の1対1の場として大切にしている。昔話を聞き、歌を歌い、家族の話をするなどである。これらを生活記録に残して共有に努めている。入浴拒否する場合は無理はしないが、「明日往診があるから」などと説得はしている。季節の菖蒲湯やゆず湯の他好みの入浴剤も使用し一人毎に湯を替えている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活にめりはりをつけるという観点から、洗濯物たたみ、調理、配膳、食器拭きなどを行っている。同じビルにあるデイサービスの利用者を戸口で送り迎えすることを日課としている人もいる。七夕飾りや、折々の連坊商興会あげてのイベントの見物も楽しみの一つである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームとしては、入居者が室内の温度に変化がないために、四季の感覚が鈍ることを懸念しており、毎日の散歩をすすめ、買い物では一人ひとりの力量に応じ支援している。職員は商店街の人達と顔馴染みになってほしいと願っている。また、「連坊小路マイスクール児童館」など利用可能な社会資源に恵まれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員等は、日中玄関に鍵を掛けることが、身体拘束につながる行為であることを理解している。どんな時でも入居者の所在や様子を把握し、徘徊にも対処出来るので鍵は掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームと同じビルにあるデイサービスとの複合型施設として、商店街商興会との間に、天災などの有事の際は地域の高齢者、障害者の避難場所として受け入れを取り決めている。年に2回商店街の協力を得て、夜間想定での避難訓練を実施し、防災設備についても若林消防署立会いで点検している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は同法人のデイサービスで調理したものであるが、朝食、夕食はホームで食材を買い調え調理している。献立表をデイサービスの栄養士に見てもらい、助言を得ている。体重の増加気味な入居者の対応に工夫し、旬の食べ物を話題にし、叶えられるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームはビルの2階なので、室温、湿度等の管理は容易であり、それだけに入居者が常にほどよい温度で過ごしているため、季節感を失うのではないかと職員は心配している。冬には厚着をして散歩したり、朝刊に触って冷たさを試したり、季節の花を飾ったり、職員は気配りして支援している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等と共に、写真などもあり、ホームの配慮が感じ取れる。それぞれに個性的な設えであり、その人なりの生活観が感じとれた。各人の部屋に名前がある。例えば「のぞみ家」とか「いこい家」とかである。		